

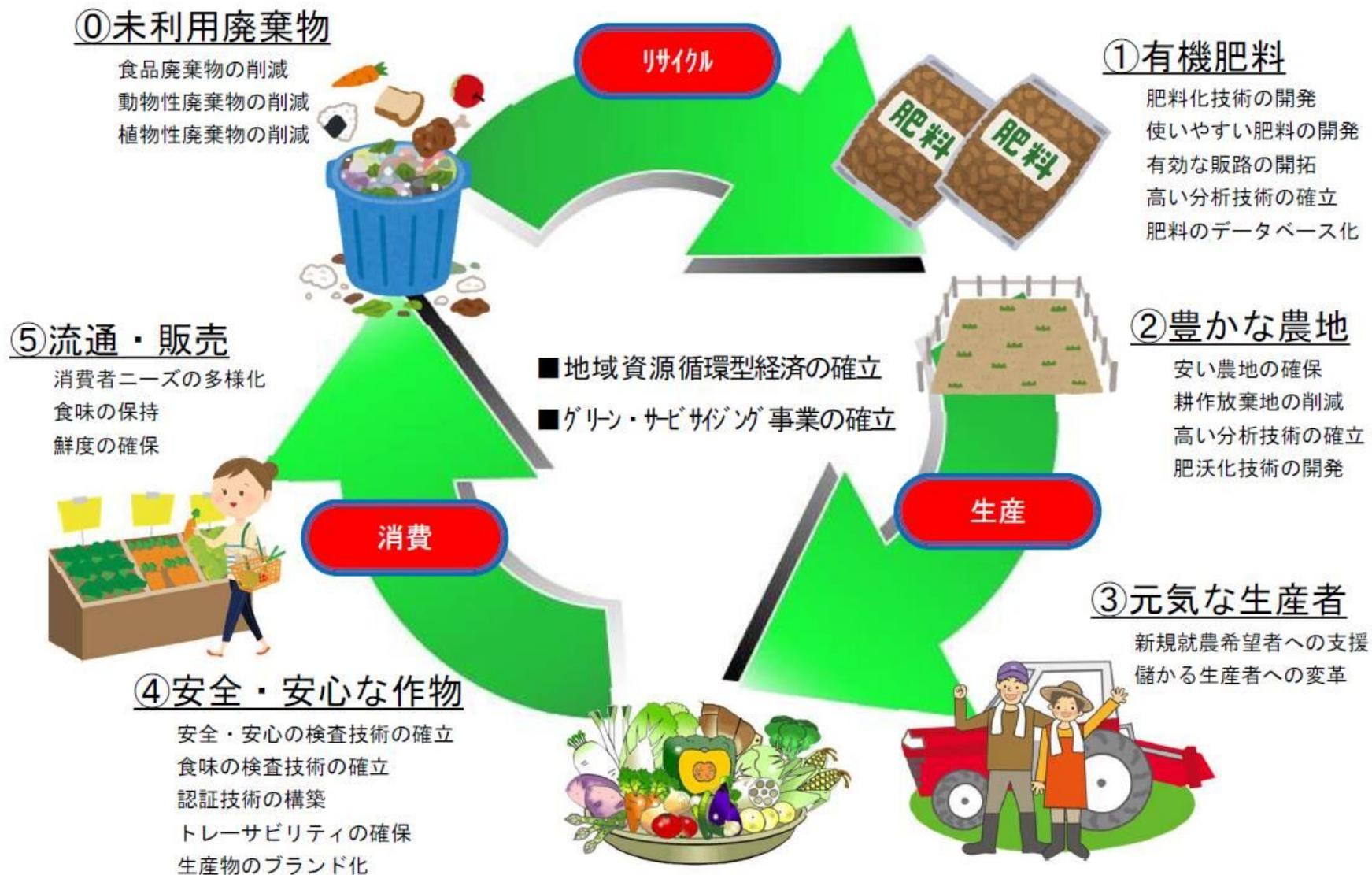


## 食品リサイクルによるごみ減量と 北九州市内におけるサーキュラーエコノミーの取組み

令和6年11月1日

 株式会社ウエルクリエイト

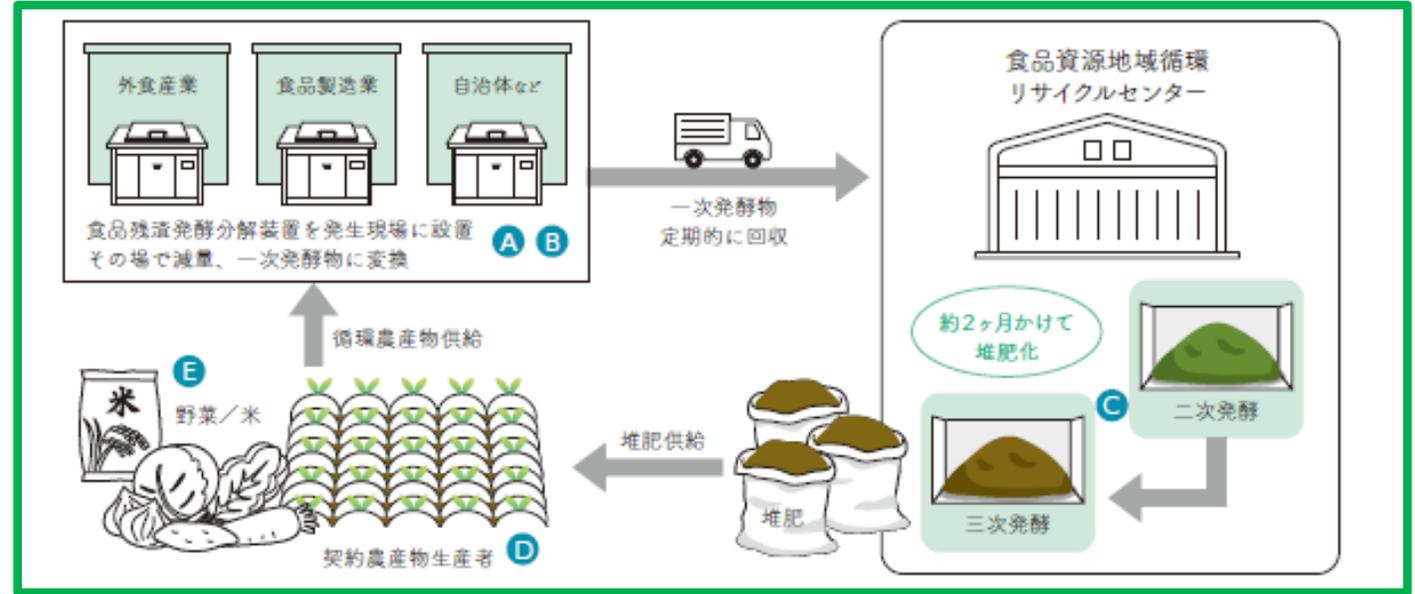
# 有機系地域資源リサイクルによる 循環経済社会構築を目指して



# オンサイト処理方式とオフサイト処理方式の違い

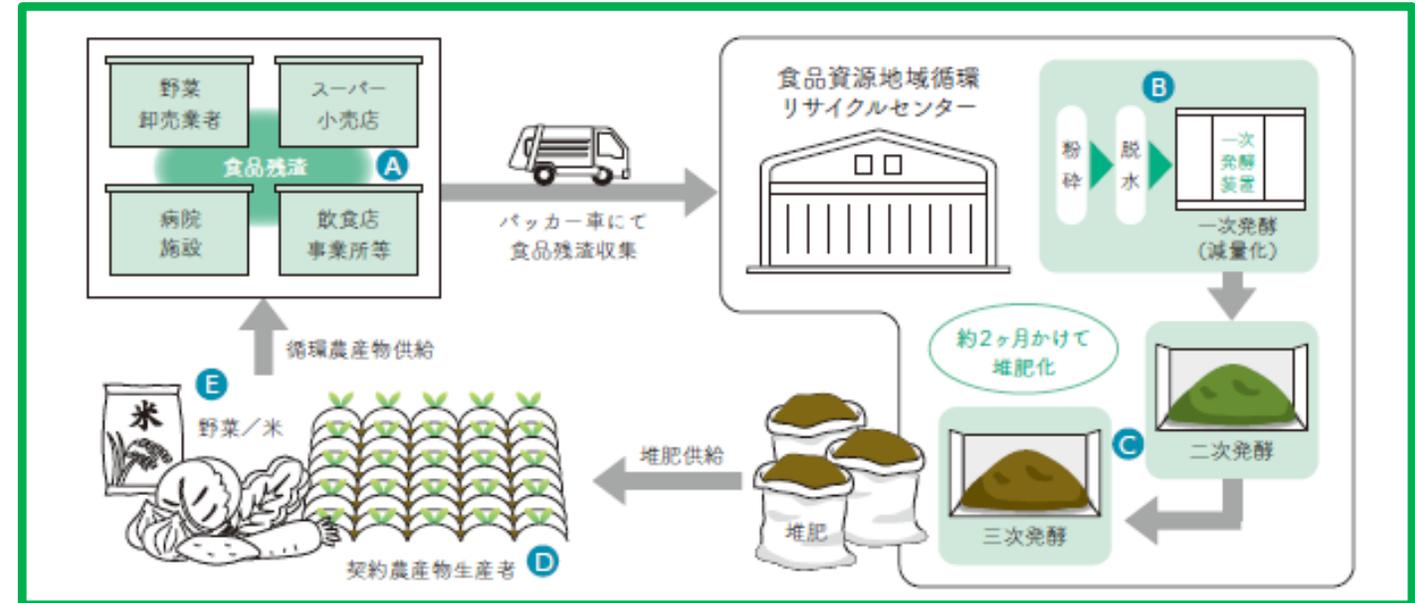
## オンサイト処理方式

食品残渣発酵分解装置を食品工場・スーパー・飲食店等の食品残渣の発生現場に設置し、その場で分解・減量、一次発酵までします。定期的に一次発酵物を回収（有価買取）し、リサイクルセンターへ持ち込み約2か月かけて堆肥化します。



## オフサイト処理方式

食品残渣発酵分解装置の設置ができない場所でも、堆肥化リサイクルに参加できるシステムです。事業者が自己搬入するか、ウエルクリエイトがパッカー車等で回収し、リサイクルセンターで一次発酵を集中処理するシステムです。



# 地域食品資源循環ソリューションの概要 <オンサイト方式>

## メリーズシステムのサブスクリプションサービスとは

- 食品関連事業者様へ「食品残渣発酵分解装置」を含む必要な装置・機能をサブスクリプションサービスで提供。  
(サブスクリプションサービス=月額定額制サービス)
- 初期投資不要。(※)廃棄物処理に代えて、サービスに加入するのみ。 ※設置条件によっては初期費用が必要になる場合があります。



### ● IoTを活用した効率的運用管理

⇒ 発酵環境を遠隔より監視、障害の早期検知  
全国保守拠点を活用した装置メンテナンス、  
発酵物の効率的な回収システム

### ● ESG投資 (NTTファイナンス)

### ● 装置の長寿命化

# 【オンサイト方式の取組事例】 - サミット(首都圏に展開するスーパーチェーン)

サミット株式会社 世田谷船橋店様



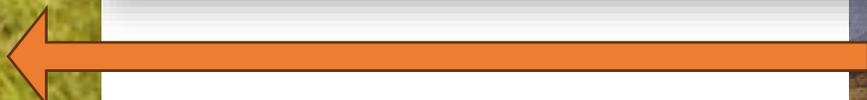
各店舗ごとにフォースターズを導入している事例

- 1日100kgの生ごみが約5kgに
- 社員の分別意識の向上
- 生ごみの臭気を抑え、より衛生的に
- 3年で同機を125店舗導入





# 【オフサイト方式の取組事例】 - ウェルクリエイト本社リサイクルセンター



# みどりの食料システム戦略（概要）

～食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現～

Measures for achievement of Decarbonization and Resilience with Innovation (MeaDRI)

令和3年5月  
農林水産省

## 現状と今後の課題

- 生産者の減少・高齢化、地域コミュニティの衰退
- 温暖化、大規模自然災害
- コロナを契機としたサプライチェーン混乱、内食拡大
- SDGsや環境への対応強化
- 国際ルールメイキングへの参画



### 「Farm to Fork戦略」(20.5)

2030年までに化学農薬の使用及びリスクを50%減、有機農業を25%に拡大



### 「農業イノベーションアジェンダ」(20.2)

2050年までに農業生産量40%増加と環境フットプリント半減

**農林水産業や地域の将来も  
見据えた持続可能な  
食料システムの構築が急務**

持続可能な食料システムの構築に向け、「みどりの食料システム戦略」を策定し、中長期的な観点から、調達、生産、加工・流通、消費の各段階の取組とカーボンニュートラル等の環境負荷軽減のイノベーションを推進

## 目指す姿と取組方向

### 2050年までに目指す姿

- 農林水産業のCO2ゼロエミッション化の実現
- 低リスク農業への転換、総合的な病害虫管理体系の確立・普及に加え、ネオニコチノイド系を含む従来の殺虫剤に代わる新規農薬等の開発により化学農薬の使用量（リスク換算）を50%低減
- 輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量を30%低減
- 耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%(100万ha)に拡大
- 2030年までに食品製造業の労働生産性を最低3割向上
- 2030年までに食品企業における持続可能性に配慮した輸入原材料調達の実現を目指す
- エリートツリー等を林業用苗木の9割以上に拡大
- ニホンウナギ、クロマグロ等の養殖において人工種苗比率100%を実現

### 戦略的な取組方向

2040年までに革新的な技術・生産体系を順次開発（技術開発目標）

2050年までに革新的な技術・生産体系の開発を踏まえ、

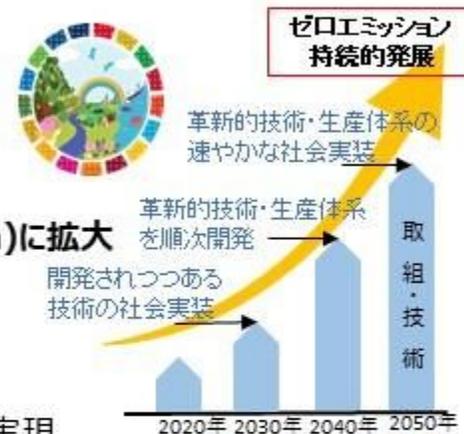
今後、「政策手法のグリーン化」を推進し、その社会実装を実現（社会実装目標）

※政策手法のグリーン化：2030年までに施策の支援対象を持続可能な食料・農林水産業を行う者に集中。

2040年までに技術開発の状況を踏まえつつ、補助事業についてカーボンニュートラルに対応することを目指す。

補助金拡充、環境負荷軽減メニューの充実とセットでクロスコンプライアンス要件を充実。

※革新的技術・生産体系の社会実装や、持続可能な取組を後押しする観点から、その時点において必要な規制を見直し、地産地消型エネルギーシステムの構築に向けて必要な規制を見直し。



## 期待される効果

### 経済

#### 持続的な産業基盤の構築

- ・輸入から国内生産への転換（肥料・飼料・原料調達）
- ・国産品の評価向上による輸出拡大
- ・新技術を活かした多様な働き方、生産者のすそ野の拡大

### 社会

#### 国民の豊かな食生活 地域の雇用・所得増大

- ・生産者・消費者が連携した健康的な日本型食生活
- ・地域資源を活かした地域経済循環
- ・多様な人々が共生する地域社会

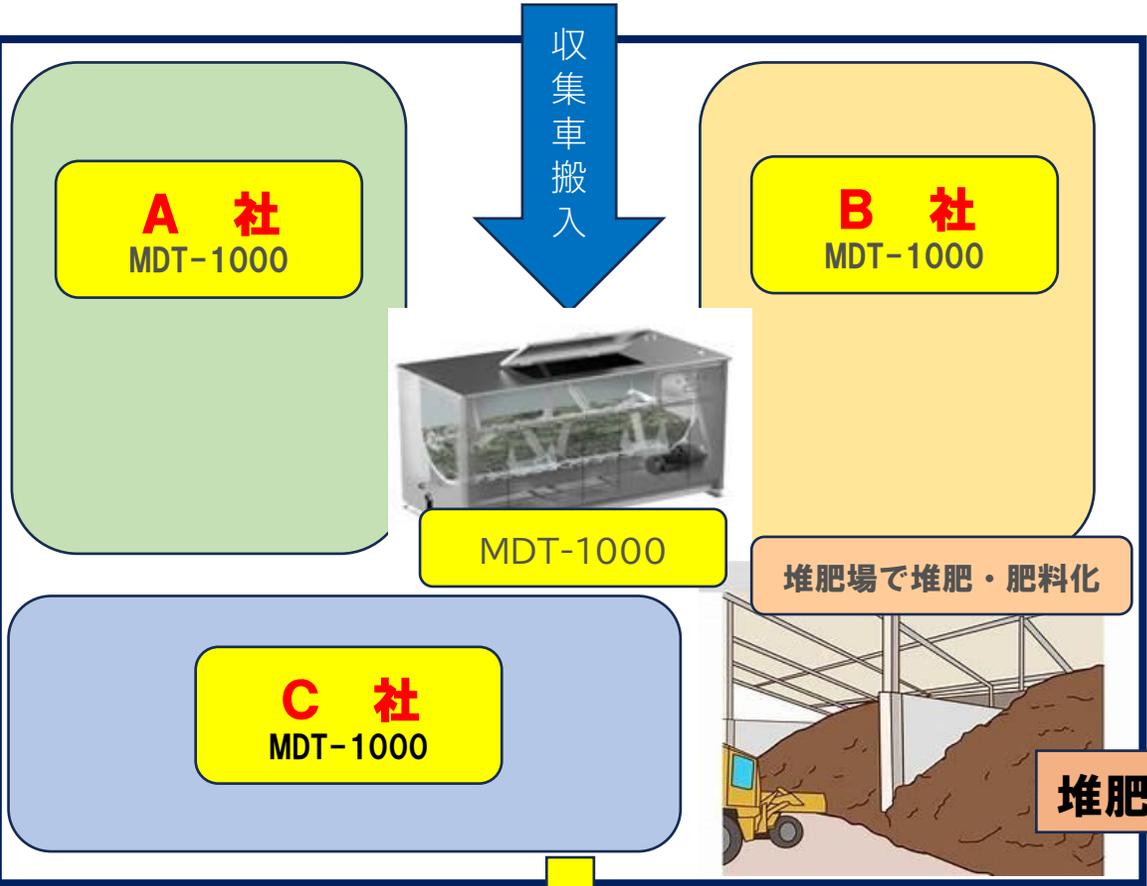
### 環境

#### 将来にわたり安心して 暮らせる地球環境の継承

- ・環境と調和した食料・農林水産業
- ・化石燃料からの切替によるカーボンニュートラルへの貢献
- ・化学農薬・化学肥料の抑制によるコスト低減

アジアモンスーン地域の持続的な食料システムのモデルとして打ち出し、国際ルールメイキングに参画（国連食料システムサミット（2021年9月）など）

# 「若松・循環イノベーションセンター(JIC)」のイメージ図



一部は下水道へ排出

排水

排水を農園で活用

# 「若松・循環イノベーションセンター(JIC)」の整備予定地

ネイチャー農園

若松・循環イノベーションセンター



**ご清聴ありがとうございました**

**【お問い合わせ先】**

**株式会社ウエルクリエイト  
管理部長 田上 裕之**

**TEL:093-752-5300**

**URL <https://www.well-c.co.jp>**

**E-mail [tagami@well-c.co.jp](mailto:tagami@well-c.co.jp)**